

西東京市 図書館だより

第8号

平成15年(2003年)1月5日

中央図書館

西東京市南町5-6-11
(0424)65-0823

谷戸図書館

西東京市谷戸町1-17-2
(0424)21-4545

下保谷図書館

西東京市下保谷4-3-18
(0424)21-3060

柳沢図書館

西東京市柳沢1-15-1
(0424)64-8240

芝久保図書館

西東京市芝久保町5-4-48
(0424)65-9825

ひばりが丘図書館

西東京市ひばりが丘1-2-1
(0424)24-0264

編集・発行：西東京市図書館

ホームページアドレス <http://www.library.city.nishitokyo.tokyo.jp>

中村彰彦氏文化講演会

「加賀百万石の功罪」

平成14年11月23日(土)午後2時から、保谷公民館視聴覚室にて西東京市図書館文化講演会を開催しました。

あいにく小雨混じりの曇り空でしたが、約90名もの参加がありました。昨年、「加賀藩百万石の知恵」を出版され、またTVでも「利家とまつ」が大変話題になったことから、今回は加賀藩について講演をお願いしました。史実をもとに興味深いエピソードを多く交えてのお話に、参加者は熱心に耳を傾けていました。以下、講演内容の要旨を簡単にご報告します。

前田家は、戦国から幕末まで続き、明治には華族となる。利家以降、利長・利常そして4代目をはさんで綱紀と続く。戦国時代、特に豊臣の時代に貢献して、最終的には秀吉の片腕とまでなる。これが利家である。

利家は、天文7年名古屋の近く荒子城で生まれ、幼名を犬千代と言った。その頃は織田家に仕えており、犬千代も織田家の若君信長の小姓として仕えていた。資料によると大変な美男で、信長の御稚児としてかわいがられたようだ。これは当時大変名誉なことであった。そして「子

飼いの家臣」となり、信長と共に「か

ぶきもの」といわれ、槍が利家のシンボルであった。利家の言葉で「富士の山ほどの心を持って奉公せよ」とある。大きくゆったりした心で奉公するのが武士の秘訣である。そして小姓から馬廻りとなり、出世して伝令役という危険な役の赤母衣衆となる。

天正10年6月2日、本能寺の変で信長が横死し、その仇を討った豊臣秀吉と柴田勝家の権力争いで賤ヶ岳の戦となる。柴田勝家の部将として越前府中3人衆の一人であった利家は、当然勝家につくべきだが、小姓時代から仲の良かった秀吉につき、勝家は敗れて秀吉が次の天下人の道を確立し、利家は秀吉の部将となる。この時勝家の部将であった佐久間盛政



も敗れ、その城をもらうが、これが後の金沢城となる。そして加越能三国の80数万石の領土となり、前田家支配の原型ができてあがる。

豊臣政権の成立後、秀吉の最大のライバルは徳川家康であったが、秀吉が死ぬ時に利家は秀頼の後見人になる。この時、家康は5大老の筆頭で250万石、利家はまだ83万石であったが、人望はNo.1だった。秀吉の死後は利家対家康という構図ができるが、すでに利家にも死期がせまっております。慶長4年62才で死ぬ。翌年1600年・関が原の戦の年であると考えると、利家が生きていた間は豊臣家と徳川家の均衡が保たれていたのであり、そこにこそ利家の存在感があつた。

利家の死後利長が継ぐが、利家の遺言に背き、豊臣家に貢献することもなく時代の趨勢である徳川になびいてしまう。それによって加賀百万石は幕末まで続くことになるが、男気がない。また3代目の利常も加賀百万石を守るために、頭がよくて危



険な人物と見られるよりは、わざと馬鹿な振りをしたりと非常に屈折している。小説の主人公足り得ないところがあつた。4代目は早死にして、5代目の綱紀の時代になつて、文化が花開く。綱紀は会津藩の保科正之の娘を嫁にもらい、保科正之の教えで社倉制度(飢饉に備えて米などを備蓄する制度)が加賀にもでき、和紙・漆・蠟燭などができる。しかし、文化的には豊かになるが、歴史的な面では積極的に貢献はしなかつた。

そして幕末になるが、今まで百万石を如何に存続させるかに懸命のあまり、藩外の人間と藩士たちとの交流を禁じていたために、政治の動きが伝わってこなかつた。当時加賀藩は佐幕派(官軍)だつたが、元治元年、禁門の変の時、最後の藩主慶寧は長州藩に洗脳されて尊王攘夷派(賊軍)につく。が、鳥羽・伏見の戦いの後、今度は幕府が賊軍となり薩長側が官軍となると、あわてて官軍につくというように右顧左眈する。そして戊辰戦争の際も、前線で戦わず物資を送つていこううちに官軍となり、生き残つて前田公爵が成立する。

加賀前田家は、戦国・特に豊臣政権の確立とその安定期には初代利家が大変貢献した。そこは評価すべきだが、百万石を守るために懸命になりすぎて、幕末維新の日本の近代成立にはほとんど貢献しなかつた。そんなところに、加賀百万石の功罪がある。

図書館協議会から

平成14年度第三回定例会報告

第3回定例協議会は、10月24日(木)午後3時から5時まで中央図書館会議室で行われました。

発言内容の趣旨は次のとおり

(1) 諸報告

図書館長より9月市議会定例会において、図書館に関連ある質問とそれに対する答弁について報告されました。

①(質問)

ブックスタートに関連し、絵本と乳幼児の発達をどうとらえているか。今後どうすすめるのか。

(答弁)

絵本には、絵本の持つ情報を知らせるものがある。絵本を通して、親子のコミュニケーション・触れ合いが深まり、こどもの安定した成長に役立つものと考えている。ブックスタートによって、これが本に親しむきっかけになればよいと期待している。ブックスタート推進に当たっては、今後、プレゼント本の選択や推奨本のリスト作成などについて、市民参加による協力をお願いしていきたい。

②(質問)

子ども読書活動推進基本法の市の取り組みについて、今後、どうすすめるのか。

(答弁)

子どもの読書活動の推進に関する法律が、昨年12月施行された。

現在、東京都が都としての推進基本計画を策定中であり、来年2月にでき上がると聞いている。

これを受けて本市としても推進計画を策定する予定であり、今後検討していきたい。

③(質問)

朗読ボランティアについて、録音テープ作成謝金が、旧市異つていたがどうなったのか。ボランティアの登録のメリットは。

(答弁)

謝金については、13年度から統一した。ボランティアは、現在3グループある。いま、ボランティア養成講座を行っているが、修了者が別のグループとして組織されるのは図書館は望んでいない。できるだけ統一を願っている。

④(質問)

柳美里さんの『石に泳ぐ魚』について、国立国会図書館等対応に差がある。対応は、どうなっているか。

(答弁)

『石に泳ぐ魚』は、一九九四年九月の雑誌『新潮』に掲載されたもの。当市図書館の雑誌の保存期限は、

初めての仕事！ 職場体験

学校と図書館は、いろいろな連携をしています。その中でも、ここ数年定着化してきている一つに、中学生の職場体験・訪問があります。今年、9校の2年生56人・わかば学級の3年生2人・高校1年生3人が、1日4日間図書館の仕事を経験しました。カウンター業務・配架整理・本の装備・おはなし会への参加などさまざまな仕事をしました。

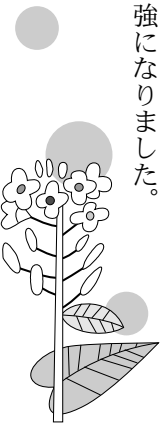
普段は借りる側で、仕事をしてみるといつもと違うことが分かり、おもしろく勉強になった。

目や耳の不自由な人のためのサービスの工夫がされていることに驚いた。

仕事は、少しハードでしたが、自分のためにもなりました。本当にありがとうございました。

古文書や古い新聞があつて、市の昔のことを調べられることが分かった。

僕は仕事というものは、あまりおもしろくないものだと思つていま



学校の教師2人が図書館へ実習にきました。互いに良い体験・刺激・勉強になりました。

た。しかし、実際はきびしいけれどもおもしろかつた。それに、仕事が終わった後は、とても充実感があつてうれしかつたです。パソコンの仕事が楽しかつた。これからいっぱい勉強して、将来好きな仕事ができるように。また、本を借りていきます。

このほかにもたくさん感想がありました。子どもたちを受け入れるというの、正直言いますと時間的・精神的そして人間的にも大変なものがあります。しかし、このようにいろいろなことを発見したり、感じたり、考えてくれたことを知ると、図書館員の心はとてもうれしく暖かくなります。子どもたちと一緒に仕事をすることで、私たちにも新たな発見があつたりします。未来ある子どもたちのために、図書館が力を貸せるうれしい仕事です。

この他に今年、大学生5人・小学校の教師2人が図書館へ実習にきました。互いに良い体験・刺激・勉強になりました。

市民からのメール

図書館のホームページには、メールアドレスがのつています。

平成14年10月開始以来、多くの図書館への要望・意見・質問等をお寄せいただいています。

その中で、複数の方から寄せられたメールの回答を誌面を通じてお知らせします。

*

「なぜ西東京市の図書館には、まんががないのですか。ぜひまんがも入れてもらいたいと思います。」という質問・要望についてですが、西東京市図書館では、以下の理由からまんがの所蔵について慎重な対応をとっています。

1. 書架スペースの問題

ご承知のとおり、西東京市の図書館では現在書架・書庫ともに満杯の状態で、書架増設も思うようにいっていない現状です。まんが所蔵による書架の確保は、困難な状況となっています。

2. 図書館資料費の問題

現在の限られた資料費の中で図書館資料の購入を考える時、まんがの他にも皆さんに読んでもらいたい資料はたくさんあり、多巻ものの多い

一年としておらず、現在の蔵書とはなつておらず、この問題については発生していない。

(2) 議案

① 浦安市立中央図書館視察について

(発言の概略)

10月3日浦安市立中央図書館を視察見学し、特に児童サービスの現状について理解を深めたので、当館が参考とすべき点について自由に意見を交換し合つた。

次回は、1月23日(木)午後3時から、中央図書館で開催予定です。

(報告者/村田 眞昭)



まんがに予算をつかうことがむずかしい状況となっています。

3. 現状について

現在、市内のいくつかの図書館YAコーナーでは、まんがの所蔵をしています。これらのまんがは、担当者が現物評価をし、選定したもので欠本の補充や続刊の購入も実施しています。

まんがの所蔵については、今後も図書館の課題のひとつと考えます。課題の解決に向け努力していきます。また担当職員も学習・研究した上でまんがを評価・選定し、所蔵していきたいと思つています。

*

「インターネットによるリクエストの方法が分かりません。」という質問も多く寄せられました。

これについては、「西東京市図書館だより第6号」で、ホームページ検索・予約の方法を紹介しましたので参照していただきたいのですが、あいにく残部がありませんので、コピーしたものを差し上げています。貸出カウンターでお申し出ください。

今後も貴重なご意見をお待ちしております。

としょかんカレンダー

西東京市図書館をご利用いただきありがとうございます。定期休館日は毎週月曜日と祝日です。月曜日と祝日が重なった時は翌火曜も休館します。日曜日と祝日が重なった時は開館し、月・火曜が休館日となります。1・2・3月の開館日は次の通りです。

休館日

※新町分室は水曜日から土曜日、午後1時から5時まで開館します。

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
1	5	6	7	8	9	10
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	2	3	4	5	6	7
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
3	2	3	4	5	6	7
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

ハンディキャップ・サービスのご案内

西東京市図書館では、「すべての人にすべての本を」を大きな目標として、各種サービスの提供に取り組んでいます。なかでも、「ハンディキャップ・サービス」は、通常の印刷物のままでは読むことが困難な方や、様々の障害によって図書館を利用できない方への、文字情報や読書要求に応えるためのサービスです。

◆ 広報テープの貸出

「広報西東京」「社会福祉協議会だより」など、西東京市で発行している広報を音訳し、「声の広報」としてカセットテープでお届けします。

また、新しい図書の中から本の内容をお伝えする「新刊案内」をご用意しています。

◆ 録音資料の貸出

本や雑誌などを著作権者のご承諾を得て音訳し、録音・校正した「録音図書」「テープ雑誌」を貸出しています。図書館に登録した音訳者が作成するほか、他の自治体の図書館からの借用や市販品の購入等でご希望の資料をご用意いたします。

◆ プライベートテープの作成

個人的に必要な資料やパンフレットなどを音訳、録音したテープを提供しています。資料およびカセット

テープはご自分でご用意ください。

◆ 対面朗読

図書館所蔵の本や、お手持ちの資料等を、対面で朗読します。手紙や電気製品の説明書等どんなものでもかまいません。

図書館の対面朗読室など公共施設内で実施しています。

◆ 点訳

図書や雑誌などを点訳・貸し出します。また、個人的に必要な資料を点訳し提供します。

◆ 耳の不自由な方へ

手話のできる職員が不在の場合は、職員が筆談で対応いたしますので、お気軽にご相談ください。また、資料のリクエストや調べものなどについては、文書やファックスによる受付をします。

◆ 登録の申し込み方法

ご希望の方は、市内の図書館のいずれかにお電話ください。ご家族の方やご近所の方など、ご本人以外の方が来館、申し込みいただいても結構です。お名前とご住所を健康保険証などで確認後、利用登録を行います。